

にいがた高校演劇

WEB版

令和5年度新潟県高等学校総合文化祭演劇発表会
第59回関東高等学校演劇研究大会新潟予選会
ほか 令和5年度活動の総括

これからの高校演劇に向けて

今年度の活動から

新潟県高等学校文化連盟演劇専門部長 新潟県高等学校演劇協議会長 鈴木勇一

新型コロナウイルス感染症の感染が始まって4年目、ようやくその波も収まり、演劇専門部の活動もコロナ前の水準にもどりました。感染症対策が全く必要でなくなってきたということではないですが、何よりも生徒達が生き生きと活動することができるようになったことが、今年度の一番の嬉しい変化でした。

演劇専門部の令和5年度の事業ですが、8月10日には県高校演劇講習会を20校98人の参加で開催しました。9月に3会場に分かれて開催した地区予選会演劇発表会では、3地区合わせて28校約250人が参加して県大会を目指して競い合いました。関東高等学校演劇研究大会県代表選考会を兼ねた県総合文化祭演劇発表会は11月10日、11日、12日に新潟市江南区文化会館で行いました。1、2校が参加したこの大会で、長岡高校が最優秀賞、長岡向陵高校が優秀賞第1席となりこの2校が北関東大会への出場権を得ました。そして、1月27日、28日に栃木県で行われた関東大会（北会場）は栃木県で開催され、長岡・長岡向陵高校は優良賞となりました。今年度は、県内各地でも盛んに発表会が

開催されました。長岡地区（6月、1月）、新潟市（12月、1月）、新潟市江南区（2月）、柏崎市（2月）、妻有地区（3月）で開催され、20人を超える高校生が参加しています。

このように、活発に行われた今年度の演劇専門部の活動ですが、近年は多くの学校で部員の減少に悩んでいます。県全体で見ても、令和元年度には加盟校44校生徒数44人だったのが、令和5年度には40校35人と大きく減少しています。少子化が進む中、どの部活動でも同様の状況にあります。演劇専門部としては、各校の部員が熱心に、生き生きと活動する姿、舞台上で熱演する姿を、多くの人たちに見て貰うことを通じて演劇の魅力を広く伝え、さらなる高校演劇の発展を目指す必要があります。顧問の皆さん、生徒の皆さん、頑張ってください！

最後になりますが、演劇専門部の活動に関わってくださった全ての関係者のご尽力に感謝申し上げます。

令和5年度 新潟県高等学校文化連盟演劇専門部の活動

演劇専門部委員長 高沢 克之

コロナが2類になった今年度、コロナ以前と年間を通してほぼ同様の活動を実施することができました。各地区大会での作品レベルもコロナ以前に戻り、非常に見応えがあった。ただ、参加校数はコロナ以前には及ばず少ないままだった。また、全県の演劇部数そのものも減り続けている。各地区の演劇部が減ることで、その地区ごとに独自で行われていた様々な演劇発表行事も年々減少している。今後は、県内演劇部全体の活動を活性化することで、各高校の演劇部活動を活性化させていきたいと考えている。

11月に行われた総合文化祭演劇発表会（県大会）では、多くの創作演劇が上演されただけでなく、様々な既成作品も上演された。これは、全国的に見ても珍らしい「渋さ」があった。高校生にとって20代後半〜40代の役を演じることは非常に難しいことであるが、長岡向陵の生徒は見事に演じきっていた。原作を私は見ていないが、今回の向陵以上に演じることは出来ないのではないかと思えるほど、それぞれの役者が役にじっくりはまっていた。秀逸な作品だったと思う。



れ例年以上の大会レベルとなった。新潟県勢は、春の全国演劇発表会には何度か参加してはいるものの、夏の総文祭には関東代表として40年近く参加することが出来ていない。来年度こそは、関東の壁を越える作品が生みだされるよう専門部の計画も見直していかなければならないと考えている。

以下、今年度行われた県大会12校の作品について、その上演内容を簡単に紹介する。

最優秀賞・斉藤道男（照明）賞
長岡「彼の子、朝を知る。」
白梅かのこ／作 鶴巻昌洋／潤色

この作品は、2017年の全国大会で上演された作品で、様々なテーマ・時間・人物が次から次へと展開する群像劇である。初見ですべてを理解することは難しいかもしれない。長岡高校は長岡火花を題材にしたことで、今、世界各地でおこっている戦争に結びつけることに成功していた。きっとどこかでいたる中で、様々な努力と葛藤があったのではないかと。最優秀賞にふさわしい大きな作品だった。

優秀賞 第一席
長岡向陵「回転、または直進」
福田成樹／作 演劇部／潤色

この作品は2015年近畿ブロックで上演された作品で、高校演劇の作品には珍しい「渋さ」があった。高校生にとって20代後半〜40代の役を演じることは非常に難しいことであるが、長岡向陵の生徒は見事に演じきっていた。原作を私は見ていないが、今回の向陵以上に演じることは出来ないのではないかと思えるほど、それぞれの役者が役にじっくりはまっていた。秀逸な作品だったと思う。



長岡向陵高等学校

優秀賞 第二席
敬和学園「かぶらもん」
阿波加寛／作（顧問創作）

顧問の阿波加先生が書き上げたこの作品は、新潟県ではなかなか見ることの出来ない設定・テーマの意欲的な作品で、今後の新潟県高校演劇の未来を垣間見れた。また、作者である顧問の気持ちが生徒一人一人に伝わって、役者も生き生きと力強い演技をしていた。セットも工夫されており感心した。来年再来年とますます成長する演劇部であることが作品から伝わって来た。



敬和学園高等学校

優秀賞 第四席
新潟工業「生徒総会」
畑澤聖悟／作 演劇部／潤色

「生徒総会」は、高校演劇の名作中の名作である。全国の学校が教え切れないくらい上演してきた。私自身も原作者の新作「生徒総会05」も含め、何度見たか分からない。にもかかわらず、新潟工業の生徒総会を新鮮に感じた。それは、作品を自分たちのものにする事に成功していたからであろう。新潟工業らしい、すべての観客を楽しませる事に成功した上演であった。



新潟工業高等学校

優秀賞 第三席
巻総合「日の丸水産くじみこ、日野家を語る」
クカハシナオコ／作 演劇部／潤色

この作品は、東北大震災をテーマに、当時見る者に大きな悲しみと希望を伝えた作品であった。私も初演校を含め、何度かこの作品を見たことがある。巻総合高校の上演は、この脚本の核をしっかりとつかみ取っていたと思う。特に主役を演じた役者の役に臨む気持ちが伝わってくる演技には、引きつけられた。何度見たにもかかわらず、心揺さぶられる上演であった。



巻総合高等学校

優良賞・舞台美術賞 六日町
「夕暮れのJK」
夕暮れの上の月より／脚本（顧問創作）
田村和也／原作 高澤克之／脚本（顧問創作）

私は個人的に二人芝居が、役者にとって一番難しいと思う。六日町高校の二人は、その難しい芝居、演技に果敢に挑んでいた。役者は二人とも素晴らしい、しっかりと積み上げた演技でありながら自然であるという高度な演技をしていたと思う。きっと、ここにいたるまで大変な努力をしたと思う。拍手を贈りたい。



六日町高等学校

大会出場生徒の声

優良賞 加茂
「夏芙蓉」
越智優作 演劇部/潤色



加茂高等学校

この「夏芙蓉」も、高校演劇の名作中の名作であり、現在も多くの学校で上演されている。逆に言えば、何度も観た事のある観客や審査員たちにとってみると、新しい夏芙蓉を期待させてしまうという難しい作品だ。そんな中で、加茂高校の夏芙蓉は非常に完成度が高かった。しかし、完成度が上がれば上がるほど、オリジナリティーが失われるというジレンマがあり、審査結果は残念なものになってしまったが、良い芝居であったことは確かである。

優良賞 創作脚本賞 新潟向陽
「わたしがし」
田中柚葉/作(生徒創作)



新潟向陽高等学校

まずなんと言っても幕開きが良かった。軽やかな音楽で幕が開き、高校生の自然な会話が始まり、何のストレスもなく芝居世界に入れた。心の声を芝居上で役者が実際に話すと、演出効果も非常に魅力的で好感が持てた。場面転換が多いことややや気が重くなったが、生徒創作作品として非常にレベルが高く、創作脚本賞も納得の内容であった。

優良賞 十日町
「パンと発明品」
石川詩織/作(生徒創作)



十日町高等学校

昨年に引き続き生徒創作の十日町高校。昨年度同様に生徒たちのこの芝居に対する気持ちが伝わってきて、観ているこちらも温かい気持ちになった。難点を言えば、脚本の設定やテーマだったと思う。AIロボそして、世界平和と説得力を持たせるのは、60分という高校演劇の中で非常に難しいものになった。しかし、そのチャレンジは賞賛したい。

優良賞 新潟中央
「Change My World」
浅川美代子・川上そよ香/作
新潟中央高校演劇部/潤色



新潟中央高等学校

SNSでの繋がりをテーマにしたこの作品は、今を生きる高校生にとって非常にリアルなものであったと思う。空間を一つに分けて、SNSでのやりとりを同時に別空間で見せる手法は、「ありがち」であったかもしれないがよく考えられたやりとりで、自然に芝居の世界に入り込めた。特に中盤までは軽快なテンポで良い芝居になっていたと思う。

優良賞 長岡大手
「ふざけた」芝居である
渡辺健太郎/作(顧問創作)



長岡大手高等学校

大手高校の大遠足が西部劇の音楽に乗って進む。途中、なぜかライブを構えた先生も出てくる。まさに「ふざけた」芝居である。しかし、自分に「芝居でふざける」は出来ないう。いや県内高校演劇でここまで「ふざけた」のは、今回の大手高校ぐらいだと思える。確かにうまげはない、芝居として穴も多い、内容もさほどない、なのに非常に面白い。役者も全員が魅力的で、脱力しきった演技に引きつけられた。個人的には、ここ数年で一番面白い芝居だったと思う。

優良賞 審査員特別賞 新潟江南
「輪」
佐藤妃菜/作(創作)
新潟江南高校演劇部/翻案



新潟江南高等学校

女の子の成長とともに話が進む。テーマは友達とその関係性。それをほほ素舞台と紐の輪で演じる意欲的な作品だった。オープニングの「線路は続くよどこまでも」の歌で始めるのは非常に効果的だったと思う。今回の芝居、昨年関東大会を経験した江南高校が、もう一歩先に行きたいという思いが詰まった作品であったと思う。きっとその気持ちはあとへ繋がると思う。エールを送りたい。

県大会に参加して

六日町高校 星野優里奈

私たちは今年「夕暮れのJK」夕暮れの上の月」を上演いたしました。

稽古をする上で気をつけたことは、自然に演技をすることです。この作品は、二人の女子高生の日常を描いた作品になっているので、どれだけ自然に演劇が出来るかに苦労しました。特に二人が会話するシーンでは、言葉を手伝って伝え、しっかりと返す言葉のキャッチボールがうまく出来ず、何度も繰り返して稽古しました。なので、感想シートに「自然な演技だった」と書いてあったことは、とてもうれしかったです。しかし、目標としていた関東大会出場は叶いませんでした。結果発表を聞いても、すぐには悲しさと悔しさで受け止めきれませんでした。でも、数日後、録画を見直してみると、反省点や改善点をたくさん見つけることが出来ました。



県大会への思いと感想

加茂高等学校演劇部

私達は、昨年から上演する事を夢見てきた「越智優」作の「夏芙蓉」を地区大会、そして県大会と発表させていただきました。この台本の魅力は、女子高校生らしい明るい場面から、最後の死と直面する暗い場面への転落です。私達はその切り替えや伝え方に苦戦しましたが、何回も何回も話し合いと練習を重ね、自分たちの持てる全力をぶつけることができました。その結果、私達の演劇を見た来てくださった方々から数多くの好評をいただき、とても嬉しかったです。またそれと同時に、演技や演出で為になるアドバイスも多かったです。数回、自分たちの演劇を進化させたいと気が付かされました。この経験、この思いを胸に、今後の様々な大会に向けてさらに頑張っていきたいと思えました。



県大会出場に寄せて

新潟工業高等学校演劇部

私たち新潟工業高校は、畑澤聖悟先生の「生徒総会」を上演させていただきました。

今回の脚本の演出をする上で苦労したところは、まず生徒会長役の子の細かな動作です。男子部員が女装する事で出演しました。最初は座る時も足を開いて座ったりと本人の動きが抜けず苦労しましたが、練習と地区大会を経てお淑やかの中に豪快さが見えるギャップのある生徒会長になったと感じました。その他にも、脚本で看板を使用する場面があり見ていただく方々にどう工夫したら迫力を感じました。また、個性のある登場人物たちの役に合った動き・喋り方を意識し、脚本の内容、面白さを伝えられるよう工夫しました。その結果、看板に迫力を感じていただくことができ、感想用紙に「面白かった」という声を多数いただくことができました。



これからもこの新潟工業らしさを受け継ぎ、更に良いものにしていきたいと感じました。

CHANGE MY WORLD!

新潟中央高校演劇部 笹川素羽

私たちが新潟中央高校は、「Change My World」を上演しました。共感しやすい内容で、楽しく演じることができました。特にオタク同士の会話は、普段の自分たちがそのまま舞台上に立っているような感じでした。シリアスなシーンでは、全力で心を込めて演じました。注目してほしいポイントの一つは、アニメシーンと最後にかかった「Goose Houseさんの「光るなら」です。劇中歌を決めるのはとても時間がかかり、全員で意見を出し合っただけでした。この曲は、タイトルもそうですが、歌詞がとてもこの台本に合っており、さらにちゃんとは勿論、二人の心情が表された素晴らしい歌詞となっています。ぜひフルで聞いてみてください！この曲がオープニングのアニメ、「四月は君の嘘」もとても素晴らしい作品なのでお勧めです！最後に、この作品を皆で上演できたことが嬉しかったです。これからも新潟中央高校演劇部の公演を楽しみにしてください！



初めての県大会

新潟向陽高等学校 石川莉央

私たちが挑戦した作品は、田中柚葉さんの創作した『わたしが』です。県大会では『創作脚本賞』を受賞しました。この作品は、夏休み中にできたもので、最初は小説のように長いト書き、長すぎる心の声、今みるとこんな時期もあったんだと、制作に携わった私から見ても驚きでした。そして、ここまで成長できたんだ、と感慨深い気持ちにもなりました。演出上、私は客席側からみると横を向いている時間が長いので、いかに横顔で感情を表現できるかを考えに考え抜きました。心の声の部分では、動きを大きくして客席に訴えかけるようにしたり、生声にするなど工夫しました。大会が終わって、惜しくも関東大会には行けませんでした。それよりもみんなまでここまで頑張ることができた、という達成感の方が強かったです。とても素晴らしい体験をさせてもらい、嬉しい気持ちでいっぱいです！



県大会に出場して

長岡大手高等学校 桑原 聖菜

今回私たちが大手高校が県大会に推薦して頂いた作品は、顧問が書いた「3・3・3」です。大手高校の伝統行事、「東山大遠足」をモチーフに、西部劇を織り交ぜた劇になります。この作品で劇の内容以外での見所は、電柱をはじめとした大道具たちです。4メートル以上にもなる電柱を削りました。みんなで時間をかけてリアルな質感の縛を表現しました。本番を終えて他校からの感想を見ると、この電柱についてのコメントが多く書かれていたので、誇らしかったです。私は役者として県大会に出場しましたが、審査員の方々から改善点を指摘され、まだまだだなと思えました。来年の大会には引退しているため出場できず、去年も出られなかったため、今回が最初で最後の大会でしたが、みんな楽しんでるから舞台を創りあげることができて良かったです。



遠く感じた等身大

巻総合高等学校 土田 結菜

私達巻総合高等学校は、『日の丸水産』ヒミコ、日野家を語る』を上演しました。演技も見せ方も非常に難しい作品でしたが、部員の総意のもと選び、練習を重ねる度に新たな魅力が見えてくることも素敵な作品でした。素晴らしい脚本であるからこそ、演じることはとても難しかったです。特に苦労した点は、キャラクターの心情をどこまで細やかに想像することができたかという点でした。私の役は同じ高校生、等身大であるはずなのに、計り知れない重責を背負い、しかもそれを諦めない強い覚悟を持っている。私はこの役に向かい、ヒミコの「全てを失って尚一人でも夢を見続ける胆力」を表現できたことは一度もなかったと思っています。私にとっては力不足で悔しい反面演技力の向上により、一層意欲が増し、様々な面で成長することができた県大会でした。



県大会に出場して

長岡向陽高校演劇部

私たちが「回転、または直進」を上演しました。この作品のテーマは「悩み、苦しみがらそれでも人は前へ進んでいく。回りながら進んでいくわけのように」だと思っています。観客の方が、上演後にほんの少しでも前向きになれるような舞台を目指して取り組みました。この作品では実年齢より上の役を演じるため、役作りに苦労しました。役の年齢に近い人の動きを観察し、演技の参考にしました。また、脚本を読み込んで役の心情を細かく分析し、どう演じれば表現できるかを何度も話し合い、繰り返し練習しました。その甲斐あって、本番では今まで一番の出来になりました。上演後、多くの方から「自然な演技だった」と言っていたので、とても嬉しかったです。ありがたいことに県大会では優秀賞第一席をいただきました。ですが、結果に満足せず、県大会での反省を今後の活動に活かしていきたいと思っています。



県大会出場に寄せて

長岡高校演劇部

私たちが「彼の子、朝を知る」という作品を上演しました。長岡花火の起源となった太平洋戦争での長岡空襲や現代の戦争、一方で日常に隠れたいじめや対立など、多種多様な「戦い」をこの作品で表現しました。過去と現代が錯綜し、いくつかの物語が同時進行で進んでいるため、はじめて見る方々にもこの作品の本質を理解していただくためにどのように演出するか部員全員で試行錯誤しました。校内での文化祭公演、地区大会を踏まえて多くの改善点もありました。勉強との両立もありとても忙しい中でしたが演劇をする時は全員が演じることを楽しみ、演じる役を愛し、最高の舞台をつくりあげました。舞台作りに関しては元となった台本とはまた違うオリジナリティを出すために舞台上に立体感を出すことを意識しました。照明は場面の切り替わりがよく分かるような構成にしました。またホリ幕を使わず大黒幕にホリ幕を当てる演出はとても綺麗に仕上がりました。部員一人一人の個性を生かし、長岡高校らしい芝居を作り上げることが出来ました。



かふあらもん 皆で共に歩んだ道

敬和学園高校 井上陽月

今大会を振り返ってみると、県大会講師の
際に審査員の先生から「チームワークの良さ
が見えて分かった」と言ってもらったこと
がとても印象に残っています。私は正直な話、
チームワークの良さは全く感じていませんで
した。

「月から始まったかふあらもんの稽古は、最
初から最後まで皆で手を取り合ってまっすぐ
の道を歩むことができた、というよりはぐち
やぐちの道を時々誰かが迷子になりながら
時間をかけて地図も方位磁針も使わずに根性
で歩ききった！みたいな、かなり無茶な稽古
でした。もちろんトラブルは日常的に起こっ
ていましたし、目に見えない喧嘩に怯えなが
らの毎日でした。ですがそんな日常で稽古を
していたからこそ、お互いの本音が見えてき
たりしてチームワークが築けていったのかな
あとポジティブに考えることが出来ます。来
年、先輩は先輩が残っていたもの道を通
っていくのか、彼らの足跡を見るのが今から
楽しみです。



発明品

十日町高校 石川詩織

どんな大発明も、初めは小さなアイデアだ
ったと思います。

「今の世の中に必要なものってなんだろう」
「私は何ができるだろう」と、そう考えた
きに生まれたアイデアが、大発明に繋がって
いく。私は、今回「パンと発明品」という作
品と過す中で、その発明の難しさを感じま
した。

小さなアイデアをどうにか形にして、「ど
うしたら伝えられるだろう」と何度も書き直
し、仲間とぶつかり、葛藤しました。
そうして出来上がったこの作品が、県大会
出場まで続いたことは、本当に幸運だったと
思っています。支えてくれた方々、そして、
部員みんなに感謝したいです。

今回の経験を、次の大発明に繋げられたら
いいな、と思っています。
ありがとうございました。



理想と 実現可能性の両立

新潟江南高校 石川夏帆

今大会で私達は、昨年創作脚本大会で上演
された作品を翻案という形で上演させていた
できました。『輪』の選定理由は、身近な話
で共感性が高かったことです。

翻案するにあたって苦労したことは、原作
の魅力の一つであった『輪』の使い方です。
『輪』は人間関係を描いたもので、登場人物
三人それぞれの大きさや太さがあると考えて
いました。しかし原作のように六十分の芝
居で輪を常に可視化するのには難しく、抽象的
な場面のみ可視化しました。また、原作では
描かれていないリオとチオのキャラクター背
景を考え、表現することにも苦労しました。
他にも、脚本作りと並行して配役を決めたの
で、想定していた役柄と役者自身の個性とが
意図せず混ざってしまったこともありまし
た。

脚本はもちろん、芝居を一から作ったこと
がある人もほほいさない状態でしたが、部員全
員で試行錯誤を繰り返しながら形にできたこ
とを嬉しく思っています。



<諸行事記録> I 発表会①第36回新潟県高等学校総合文化祭演劇部門

- 第36回新潟県高等学校総合文化祭演劇発表会
- 第57回新潟県高等学校演劇発表会
- 第59回関東高等学校演劇研究大会 新潟県予選会
- 期日 11月10日(金)～12日(日)
- 会場 新潟市江南区文化会館
- 審査員 染谷 麻衣(俳優・劇団昴、日本工学院専門学校講師)
中村 勉(元山梨県演劇専門部事務局長)
井上ほーりん(演出家、振徳座主催)

- 出場校・作品名・作者名(12校)
- ・六日町 「夕暮れのJK～夕暮れの上の月より～」
田村和也/原作 高澤克之/脚本(創作)
- ・加茂 「夏芙蓉」
越智優/作 演劇部/潤色
- ・新潟工業 「生徒総会」
畑澤聖悟/作 演劇部/潤色
- ・新潟中央 「Change My World」
浅川美代子・川上そよ香/作 演劇部/潤色
- ・新潟向陽 「わたがし」
田中柚葉/作(創作)
- ・長岡大手 「33.3」
渡辺健太郎/作(創作)
- ・巻総合 「日の丸水産～ヒミコ、日野家を語る～」
タカハシナオコ/作 演劇部/潤色
- ・長岡向陵 「回転、または直進」
福田成樹/作 演劇部/潤色
- ・長岡 「彼の子、朝を知る。」
白梅かのこ/作 鶴巻昌洋/潤色
- ・敬和学園 「かふあらもん」
阿波加寛/作(創作)
- ・十日町 「パンと発明品」
石川詩織/作(創作)
- ・新潟江南 「輪」
佐藤紀菜/作 演劇部/翻案(創作)

○参加者 140名

○審査結果

- ・最優秀賞 長岡高校
- ・優秀賞第1席 長岡向陵高校 (以上2校が関東大会に出場)
- ・優秀賞第2席 敬和学園高校 (サマーフェスティバルへ推薦)
- ・優秀賞第3席 巻総合高校
- ・優秀賞第4席 新潟工業高校
- ・齋藤道男賞(照明賞) 長岡高校
- ・舞台美術賞 六日町高校
- ・創作脚本賞 田中柚葉(新潟向陽高校)
- ・審査員特別賞 新潟江南高校

※関東大会結果 長岡高校 優良賞 長岡向陵高校 優良賞

②地区予選会(A)演劇発表会○期日 9月9日(土)～10日(日)

- 会場 新潟市江南区文化会館
- 審査員 三浦 真央(演出家、劇団「Souer+」主宰)
猪俣 哲夫(劇団「THE風・FOU」座長)
高坂 潤子(高文連演劇専門部専門委員、新潟工業高校演劇部顧問)
- 出場校・作品名・作者名(10校)
- ・高田 「Drops of Jupiter」菅原弘道/作 高田高等学校演劇部/潤色
- ・新潟 「二十年後への贈り物」上野小夜/作
- ・新潟向陽 「わたがし」田中柚葉/作(創作)
- ・長岡 「彼の子、朝を知る。」白梅かのこ/作 鶴巻昌洋/潤色
- ・新潟明訓 「あどりぶどらまくらぶ」五十嵐隆/作 新潟明訓高校演劇部/潤色
- ・新潟商業 「空白 ～アイの愛した世界～」小野川ユリコ/作
新商演劇部/潤色
- ・新潟江南 「輪」佐藤紀菜/作(創作) 新潟江南高校演劇部/翻案
- ・新潟中央 「Change My World」浅川美代子・川上そよ香/作
新潟中央高校演劇部/潤色
- ・新潟南 「学習室」木村線真/作
- ・万代 「0と1の罅」悠潔/作 万代高校演劇部/潤色

○参加者 90名

○審査結果

- ・最優秀賞 長岡高校
- ・優秀賞第1席 新潟向陽高校
- ・優秀賞第2席 新潟中央高校
- ・優秀賞第3席 新潟江南高校 (以上4校が県大会に出場)
- ・優良賞(上演順) 高田・新潟・新潟明訓・新潟商業・新潟南・万代
- ・審査員特別賞 高田

⑤創作脚本演劇発表会

- 期日 1月30日(火)
- 会場 アオーレ長岡
- 審査員
 - 逸見友哉(新潟古町えんとつシアター舞台芸術監督兼劇場支配人)
 - 鶴巻昌洋(高文連演劇専門部副委員長、長岡高校顧問)
 - 木山美奈子(高文連演劇専門部委員、長岡向陵高校顧問)
- 審査結果
 - ・最優秀賞 六日町
 - ・優秀賞(上演順) 新潟南B、長岡大手、柏崎
 - ・優良賞(上演順) 敬和学園、十日町、新潟、加茂、新潟向陽、新潟南A、高田北城
 - ・MIP賞(上演順) 六日町、新潟南A
- 出場校・作品名・作者名(10校11団体)
 - 新潟高校、新潟南高校、新潟向陽高校、敬和高校、
 - 加茂高校、長岡大手高校、六日町高校、十日町高校、
 - 柏崎高校、高田北城高校
- 参加者 200名



最優秀賞 六日町高校「青春卓球」 生徒審査員の皆さん

II 講習会

- 新潟県高校夏季演劇講習会
- 期日 8月10日(木)
- 会場 南魚沼市民会館
- 講師 ヨシダ朝日、安奈ゆかり、箱田好子
- 内容 演技・演出講習
- 参加者 130人(21校)

III 後援事業

- ①第132回長岡市高等学校演劇研究会演劇発表会
 - 期日 6月19日(日)
 - 会場 長岡リリックホール
 - 上演校 長岡大手高校、長岡向陵高校、柏崎高校、長岡農業高校、中越高校、六日町高校
 - 参加者 70人
- ②第133回長岡市高等学校演劇研究会演劇発表会
 - 期日 1月28日(日)
 - 会場 アオーレ長岡
 - 上演校 長岡大手高校、中越高校、六日町高校
 - 参加者 30人
- ③新潟市高校演劇発表会PLAY(A日程)
 - 期日 12月17日(日)
 - 会場 新潟市音楽文化会館
 - 上演校 新潟中央高校、新潟南高校、新潟商業高校、新潟向陽高校、巻高校、新潟明訓高校
 - 参加者 120人
- (B日程)
 - 期日 1月28日(日)
 - 会場 新潟市音楽文化会館
 - 上演校 新潟高校、新潟江南高校、新潟工業高校、巻総合高校、万代高校、明鏡高校、敬和学園高校
 - 参加者 120人
- ④江南区演劇祭(高校のみ掲載)
 - 期日 2月25日(日)
 - 会場 新潟市江南区文化会館
 - 参加校 今年度は参加校はなかった
- ⑤柏崎演劇フェスティバル(高校のみ掲載)
 - 期日 2月23日(金・祝)
 - 会場 柏崎産業文化会館
 - 参加校 柏崎高校
 - 参加者 8人
- ⑥妻有演劇まつり(予定)
 - 期日 3月22日(土)
 - 会場 越後妻有文化ホール
 - 参加校 十日町高校、六日町高校
 - 参加者 18人

③地区予選会(B)演劇発表会

- 期日 9月16日(土)~17日(日)
- 会場 南魚沼市民会館
- 審査員 今尾博之(新潟市民芸術文化会館事業企画部演劇企画課長)
 - 大作 綾(演出・俳優、音楽家)
 - 山本豊彦(高文連演劇専門部専門委員、高田演劇部顧問)
- 出場校・作品名・作者名(9校)
 - ・十日町 「パンと発明品」 石川詩織/作(創作)
 - ・高田北城 「いちごオレ飲みながらアイツのうわさ話した」 三浦直之/作 演劇部/潤色
 - ・柏崎 「この星(ほし)はブルー」 華陵舞(はなおかまい)/作 演劇部/潤色
 - ・六日町 「夕暮れのJK~夕暮れの上の月より~」 田村和也/原作 高澤克之/脚本(創作)
 - ・長岡向陵 「回転、または直進」 福田成樹/作 演劇部/潤色
 - ・長岡農業 「camellia」 松岡美幸/作 演劇部/潤色
 - ・長岡大手 「33.3」 渡辺健太郎/作(創作)
 - ・見附 「今宵のお酒は血のお味」 ガッシュオーブ/作
 - ・中越 「ロックは無用☆」 加藤のりや/作 演劇部/潤色
- 審査結果
 - ・最優秀賞 六日町
 - ・優秀賞第1席 長岡大手
 - ・第2席 十日町
 - ・第3席 長岡向陵 (以上4校が、県発表会に推薦)
 - ・優良賞(上演順) 高田北城・柏崎・長岡農業・中越
 - ・柏崎高校
- 参加者 90名

④地区予選会(C)演劇発表会

- 期日 9月22日(金)~23日(土・祝)
- 会場 巻文化会館 ○審査員
 - 岡田 康之(演劇集団Accendere演出担当・りゅーとぴあ舞台技術科職員)
 - 樋口 珠実(長岡明德高等学校演劇部顧問、日本演出家協会会員)
 - 引場 道太(高文連演劇専門部専門委員、高志中等教育学校教諭)
- 出場校・作品名・作者名(9校)
 - ・新潟北 「それはとてもとても風の強い、軽やかな曇天の日」 黒崎ろく/作 演劇部/潤色
 - ・新潟工業 「出停記念日 2000」 島元要/作 芸術部演劇班/潤色
 - ・加茂農林 「世界は音と光できている」 修練/作 演劇部/潤色
 - ・加茂 「夏芙蓉」 越智優/作 演劇部/潤色
 - ・巻総合 「日の丸水産~ヒミコ、日野家を語る~」 タカハシナオコ/作 演劇部/潤色
 - ・新潟工業 「生徒総会」 畑澤聖悟/作 演劇部/潤色
 - ・巻 「愛と勇気と想いと」 吉田若葉/作(創作)
 - ・明鏡 「二年前の君に言いたい」 有田妙月、田中晃、 吳港高校演劇部/作
 - ・敬和学園 「かふぁらもん」 阿波加寛/作(創作)
- 審査結果
 - ・最優秀賞 加茂
 - ・優秀賞第1席 巻総合
 - ・第2席 新潟工業
 - ・第3席 敬和学園 (以上4校が、県発表会に推薦)
 - ・優良賞(上演順) 新潟北、新潟工業、加茂農林、巻、明鏡
- 参加者 90名



ヨシダ班

レベルアップの夏!! あの「夏合宿」が還ってくる?!

夏季演劇講習会 令和6年度 8月8(木)~9日(金) 開催決定!



安奈班



箱田班